

第 2 期 鳥取市中心市街地活性化基本計画検討委員会
第 2 回 議事概要

1. 日 時 平成 2 4 年 7 月 1 8 日（水） 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0
2. 場 所 市議会全協室
3. 出席委員 1 2 名(欠席 3 名)【委員会名簿参照】
4. 事務局 都市整備部中心市街地整備課

【会議概要】

=開会=

◎ 委員長挨拶

それぞれの部会でまち歩きや部会をやっていただき、ある程度議論ができているところもあるようである。また、学生さんからも意見を聞いたとお聞きしている。今日は 2 つの部会の今までの成果をご披露いただき、それについて全体会議で包括的な意見統一をやっていきたい。

=報告・協議事項=

- (1) 第 1 回委員会議事概要 【資料 1】

事務局)

(第 1 回委員会議事概要の説明)

委員長)

今の説明に関してご質問はあるか。このようなことがこの前議論されたということで、議事録としてお認めいただきたい。

=報告・協議事項=

- (2) 各部会等の取り組みについて 【資料 2】

事務局)

(第 2 回、第 3 回鳥取駅周辺地域・商業交通検討部会の説明、
第 2 回、第 3 回鳥取城跡周辺地域・住居交流検討部会の説明、
鳥取環境大学で行われた街カフェの説明)

委員長)

資料 2-1 は 2-2 から 2-5 を要約したものであり、2 つの部会で 2 回行われた概要を簡単にまとめていただいている。

まず部会長から、コメント、あるいはこの中で部会として、部会長の個人的な見解でもよいが、特に強調したい点があれば示してもらいたい。

副委員長)

鳥取駅周辺地域・商業交流検討部会長を務めている。これまでの部会で一番印象に残ったのは、まちを歩きながら皆さんで自由に意見交換した時のこと。まちを見ながら、

例えば駅を出た瞬間に見えてくる光景とか、実際に歩いてみて自転車と歩行者がぶつかりそうになるような危険な状況に遭遇したり、そこで皆さんがいろいろな問題点に非常に積極的に意見を言ってくれました。

そういう実感、実体験という部分と、検討するときに出てくる資料との距離感が結構あるのが正直な印象である。

居住人口を増やすにしろ、商業を盛り上げるにしろ、何かから手をつけたらよいのかというのが実態としてあり、ピンポイントでよい政策はなかなか無い。しかし、まち歩きでは具体的な課題を見つけやすかった。商業を活性化しようとか、そういう大きな話につながるものは見つけにくかったが、それは難しくても当然だと思う。今、部会では、具体的にどういう形で効果的な施策にするのか、糸口を見つける議論をしている。

委員長)

計画を立てるときには数値目標を挙げなければならない。しかし、数値目標も大事だが、実感や定性的なものは一致しにくいので、工夫が必要。数値に表すとできたような気がするが、きちんと整理すべき。この辺は指標の問題もあり難しいが、考えていかなければいけない。ただ単に数値的に空き店舗はこうなったではうまくいかない。空き店舗の数も大事だが、全体的に見たときの景観とか、まちなみ、風景、そういうものの感覚と数値がマッチングしにくい。

次に鳥取城跡周辺地域・住民交流検討部会から願います。

副委員長)

我々のところは袋川以北の城跡周辺地域ということであるが、これまでのところまち歩きをしたり、今までの経緯を事務局から説明いただいたりということが中心である。1つ課題になっているのは、1期計画の総括と2期計画の策定を同時並行でしており、1期計画の総括が終わっていない段階で、平行して2期計画を策定するのは難しい状況である。1期計画の総括についても、まとめ方、あるいは表現の仕方について注文をつけたり、さらなる情報の提供をお願いしているところで、2期計画の踏み込んだ意見交換をするところまで至っていない。

委員)

現状の把握と今までの実績の評価について、委員全体が十分にこなしてきていない現状である。一方、現地を実際に歩いてみると、具体的な課題が見える。今はそれらがごちゃごちゃになっている状態である。これを整理しないと次の段階に進めないというのが現状だと認識している。

委員長)

まだ問題点もあるようだが、2回、3回とそれぞれの部会でまちなかを歩いたり議論をされている。これについて、ほかの委員から、自分が参加して興味深かった点、印象に残った点があればご披露いただきたい。

委員)

鳥取駅周辺と城跡周辺というのは2核2軸の2核である。まず鳥取駅周辺のほうで、私の意見を申し上げたい。

(1)の鳥取駅周辺地域における課題だが、今、太平線再生プロジェクトが進んでい

るが、ここを全部通行止めにし、緑化地帯にして、イベントや、子どもが集って遊んだり出来るようにしたほうがよい。その場合、バスの運行ルートなどが変わってくると思う。

現地調査で、駅前から見た鳥取市の風景がよくないという意見があるが、まさにそのとおり。整然としない感じがする。将来的には改善していく必要がある。

次に、一昨年、山陰海岸が世界ジオパークネットワークに加盟したが、鳥取駅から東側のＪＲの便が非常に悪いので、よくしていただきたい。少なくとも京都まで特急列車を１日２往復とか走らせていただかないと山陰線を使ったジオパークの活性化にはつながってこないのではないかと。ＪＲとの交渉もあるが、ぜひ鳥取駅から東側の山陰線の活性化をお願いしたい。

３回目の検討会のときに、主な意見の中に「中心市街地に対して市民がどう思っているのか検証が必要」とあるが、まさにまちづくりというのはそこに住む地域の方がどれだけ共通の認識を持ってやっていくのが大事である。そういう実態がどの程度あるのか、検証すべきではないか。あまりなされていないのであれば、自治会等にも要請をすべきではないか。

それから、城のほうの核だが、確かに久松公園そのものが非常に寂しく、鳥取市を代表する公園とは言い難い。久松公園全体のグレードアップが必要。主な意見に出ているようなことを改善していくことが必要ではないか。

第３回目の主な意見で、「まちなかにいつ賑わいをつくりたいのか。平日に来てほしいのか、休日に来てほしいのか。それによって取り組む手法が異なる」という考え方が載っているが、観光地としてやろうとするのであれば、こういう考え方ではいけない。前向きに、いつ、どなたが来られても久松公園というのはいい公園だなという評価を受ける公園にすべきである。その点もこれからご検討いただきたい。

委員長)

たくさんご指摘いただいた。

ＪＲの東側の部分、特に鳥取－京都間の交通の利便性をもっと高めるべきではないか。余部鉄橋もよくなってきたので、こういうことを踏まえながら、一気に向こうへ行けるような特急も欲しいが、智頭急行との兼ね合いで、難しい点もある。観光客が京都から鳥取、鳥取から向こうへ行くというはあるかもしれない。その辺について、どのようにＪＲに求めていけばよいのか。事務局、情報があれば教えていただきたい。

事務局)

今のご意見については、交通部門のほうでＪＲに現在も要望しているし、これからも要望していく。私どもがやろうとしているのは、県と連携して、現在走っている「はくと」で弁当の販売をして、さらに乗降者を増やすということで、ＪＲに本数を増やしてもお客さんが乗ると思っていただく。また、車内のサービスに加えて、ＪＲの駅周辺で、公衆トイレをどうしていくのかとか、ＪＲから降りたところでの観光バスとの連携とか、駅の使いやすさの面をＪＲにさらに働きかける要素を増やしていきたいと市としては考えている。

委員長)

観光客が増えれば、道が込むなどして一般の人は不便を感じることもある。観光に携わる人との意識が異なる。日本は観光に携わる人の数が欧米に比べて少ない。例えば若い人が通訳で入って職業を得るとか、観光に携わる人が増えれば、恩恵が全体に広がっていく。今の一般の市民の感情は、どちらかという観光業者、あるいは旅行業者にしか恩恵がない。これは僕の独断と偏見かもしれないが。

お城周辺の問題というのは観光問題を意識しているわけだが、どうしたらいいかというイメージはあるだろうか。

委員)

観光として全国でお城を観光資源に生かしているところは、松江、会津若松、松本、熊本、岡山で、全部平城である。四方のうち的一方が観光のルートになっている。鳥取は山城である。背後を山に塞がれている。松江や松本と同じようなものを目指しても駄目である。そうすると、まち側に開かれたところを何かするしかないが、そこには裁判所、法務局、学校等の公共物があるため、一般の観光客が入り込むところが非常に少ない。飲食店もあの周りにはほとんどない。そういう状態で、観光で何か回すのは難しいのではないか。民の施設をたくさん入れないといけない。

もう1つは、博物館のところに駐車場がある。観光バスも止まれるようになっているが管理されていないので、バスで来たときに、止めようと思ったら既にバスがいて止められなかったということが多い。特に休日は多い。駐車場を管理していかないといけない。仁風閣とか二の丸は資源としては悪くないが、その2つをやらないと呼び込む力ができない。あそこから、例えばわらべ館とか西町とか観音院に行こうと思えば行けるが、ゆっくり行って帰れば1時間以上かかる。そういうことがやりにくいということが現実としてある。

観光というのは、別に観光業者だけがやることではない。おもてなし、ホスピタリティというのはみんながすることである。

もう1つは、観光というのは鳥取の周辺の人たちをまちなかに呼び込もうとするのであって、外貨を獲得するという大きな経済効果の意味がある。もう少し外の人たちが歩いてもらえるような工夫というのはあってもいいのではないか。

駐車場の管理の問題と立地上の問題、既存の建物、施設の問題で、せっかくいい資源があるのだが、非常に使いにくいものになっているというのが私の見立てである。

委員)

私どもは仁風閣を管理している。城跡も含めてこれだけの有効な地域資源があるのだが、観光のインフラがうまく機能していない。

鳥取砂丘を事例にとっても、鳥取砂丘だけがあっても駄目で、駐車場があつて、お土産物屋があつて、そういうインフラがあるから観光バスが来る。先ほど観光バスが使いにくいという話もあつたが、こういったものを一体となつてする必要がある。

確かに市民の生活と観光客がバッティングするのではないかという話は当然あるが、地域の資源を産業的に生かすということでは、観光だけに限った話ではなく、折り合いをつける方法があつてしかるべき。そういった中で、地域の資源が地域のアイデンティティとしても確立していくことが最も望ましいまちのありようではないか。

この間、BSプレミアムで鳥取砂丘の番組を流していた。植林を行って来て、しかし地域資源として鳥取砂丘は大事だということで、鳥取民藝美術館の創始者である吉田璋也がそれにストップをかけて天然記念物にしたことによって鳥取砂丘は守られている。鳥取砂丘レベルのものは日本海側には全国あちこちあるが、鳥取砂丘だけはあのように残った。だから大きな観光資源になったというストーリーの番組であった。吉田璋也は、文化財を単に守るだけでなく、観光資源として生かすことも同時にやっている。先人の事例として私も学びながらやっていかなければいけないと考えている。

委員長)

要するに資源はいろいろ価値のあるものがあるが、その周辺のインフラが十分でない状態で観光と言ってもなかなかうまくいきにくいので、観光インフラをもっとしっかりやる必要があるという考え方。

そのほかご意見をお願いしたい。

それでは、全体的に総括しながら議論していただきたい。

= 報告・協議事項 =

(3) 1期計画の総括(案) 【資料3】

事務局)

(1期計画の総括(案)の説明。資料3-1では、1期計画の概要、どういう目標であったか、事業の検証、2期計画へ向けての課題について。資料3-2では事業の評価・検証について。)

委員長)

第1期基本計画の総括について、いろんな角度からご説明いただいた。皆さん方が賛同される所、また違和感を感じる点について、意見を述べていただきたい。

委員)

資料3-1で気になった点、感想、情報提供をしたい。

5ページ目の空き店舗の関係で、もう少し書きぶりを工夫しないとわかりにくい。

この中で一番考えなければいけないのは、当初19年6月に55店舗あったのが、24年6月に65に増えた。要するに10件増えたのだが、どういう内容になっているのかここに分析されている。その5年間の中で鳥取市の補助金、空き店舗対策補助で30店舗近く支援しているのだが、なかなか効果が見られなかったところがある。**計画策定時から現在の5年間、空き店舗のまま動いていないものが21店舗ある。3割が全然動いていない。ここが1つ大きな課題である。**

もう1つは、空き店舗になって、すぐ入って改善されたところ、反対にすぐ入ったけれども業績不振で撤退されたものがある。ここはもう少し分析しなければいけない。駅前の空き店舗がかなり増えてきたのは、経済の活力がなくなってきたのではないか。空き店舗が出たら、すぐどこかが入る、そういう動きのあるところについては再生が見込めるといふ仮説を持っている。

2点目に、7ページに1期計画推進体制の検証ということで、中活協のことが書いて

あるが、その中で、2期の計画に向けた課題を8ページ以降、(1)～(3)まで書かれているが、4番目に推進体制も確たるものを作っていくということも1つの課題だろうと思う。基本計画の書きぶりの中では、(1)～(3)までの書きぶりも必要だと思うが、今後推進体制やまちづくりの人材の発掘・育成も大きな課題だと思う。これに対してどう考えていくかという書きぶりが必要だと思う。

委員長)

今のような点については、事務局のほうでももう1度精査していただき、取り入れるところは取り入れていただきたい。

ほかにご意見はあるか。

委員)

生協病院の移転整備により人が増えたということは実感しているが、末広通りが、周辺の飲食店の店舗に出入りする車、スーパーを利用する車で非常に混む。夕方から夜になると横断歩道ではないところを人が横切る。救急車も来る。いつか事故が起こると思う。駐車を規制せよとは言わないが、若桜街道のように駐車するスペースを設けるとか、何らかの対策を打たないと危険ではないか。確かに資料3-2を見ると年間19万人ぐらゐの利用者があったということで増えたということは実感しているので、そちらが後手に回らないように安全対策をやっていただきたい。

副委員長)

資料3-1の8ページの2期計画に向けた課題のところだが、ここが次の計画を作る上で一番重要になってくるポイントだと思う。(1)から(3)のところ、いろんなことが箇条書きで上がっているが、総花的に全部上げられてしまっていて、何が本当に重点を置かなければいけないものなのかがわかりにくい。特に何かというようなもののほうが総括としてはいいのではないか。

委員)

この委員会には初めて参加した。普段、私は中心市街地活性化協議会のほうのタウンマネジメント会議に出席して意見を申し上げている。今の副委員長のお話に呼応する形だが、課題の設定の仕方はもう少し工夫が要る。

鳥取のまちに働く場所がないという意見があったり、鳥取のまちの中に構造的に非常に大きな問題があり、具体的に活性化に結びつくような動きになっていない。

1期の計画の中で、協議会として、全国の協議会の中でもいろんな話し合いをしたり、事業の発掘というか、いろんなところに視点を当てながら事業の可能性を探ってきたということは非常に大きな成果であったと思っている。

今日私が思いついたレベルの話も含めて明確に打ち出すべきだろうということを申し上げておきたい。鳥取のまちで仕事を作っていくという視点をぜひ入れてほしい。働く場がないという総括では全く意味がない。働く場所を作る、あるいは働けるようにしていくという視点でこの活性化計画を大きく眺めてみるという形にしてほしい。

例えば商業の面で言うと、空き店舗について、そこで商売をしてみようという感覚になるかどうかということが1つ大きなポイントになる。

それから、今働く場が郊外にどんどん移転している。しかし、場合によっては情報と

いうことをサービスのキーに置くと、もっとまちなかでいろんなことができるようになるのではないだろうか。現実には米子のまちではスモールなオフィスで世界に向かって仕事している。まちの中でビジネスチャンスが見えてくることのあるのではないか。

健康福祉のサービスも、もっとまちなかでビジネスのチャンスとして捉えていくことが必要。飲食についても外食文化が非常に弱い部分もあるのだが、こういうものを喚起しながら、まちの中でお茶を飲むとか、ごはんを食べるとか、みんなで食事に行くということをベースとして取り組んでいく。そういうことによって飲食が根づいていくとか、仕事としての店を出そうというモチベーションにつながっていく。

今までなかなかできなかったことをどう突破していくのかというところの力強い方向性、鳥取の中心市街地がどこに向かっていくのかという話が、大きな柱として必要。

委員)

今の話に関連したことだが、課題の整理の仕方、メリハリだとか、工夫だという話があったが、全体としての課題の整理、資料3-1の8ページ(1)～(3)、推進体制を含めると(4)、こういう切り口もあるが、エリアごとの課題の整理をしないと、その中でこれからどういう活性化、事業の落とし込みをしていくのかが全くわからないのでは。全体がぼやけてしまっている。これは整理をお願いしたい。

それから、働く場は大変重要で、以前から鳥取の弱点と言われている。郊外に大学が移転したこと、事業所が移転したこと、それから居住が外部に出て行ったということがあるのだが、これは市の全体の産業政策として、中心市街地にどういう産業を根づかしていくか。例えば米子では、コンテンツ産業を根づかせようという取り組みもある。また、今後はリスク分散が重要になってくるが、そこでもう少し働きかけができないか。お勤めになる方、帰ってこられる方、向こうの企業からおいでになる方に優先的に鳥取市の中心市街地に住んでいただくとか、あるいは若者、学生さんのシェアハウスの問題とかいろいろあるので、人口対策の中でもどのエリアに住んでいただくかということも具体的に考えていかないと、1期と違って2期はどこを深掘りしていくのか、どこを強化していくのかがはっきりしなくなるのでは。そのあたりをご検討いただきたい。

委員長)

もう1つ、2期の基本計画策定の考え方があるので、そこに移らせてもらう。時間の関係があるので簡単に説明してもらい、時間もないので、後で事務局にそれぞれの専門委員の皆さんの所に伺い、ご指導を仰いだり、意見の交換をしていただいてももらいたい。

＝報告・協議事項＝

(4) 2期計画策定における考え方(案) 【資料4】

事務局)

(2期計画策定における考え方(案)の説明。基本方針、目標、目標指標、エリアコンセプト、ゾーンの設定、具体的事業の検討方針について)

委員長)

今の基本計画策定における考え方ということで事務局から説明があった。先ほど来何

度も議論されているように、第1期計画の総括の方法について、もう少しメリハリのあ
る形でやる。そのためには、ここにおられるメンバー、あるいは分科会のメンバーに事
務局は足を運んでいただき、議論してまとめていただきたい。

それに基づきながら、次は第2期計画を立てなければいけないが、第1期計画の総括
の仕方によっては多少変わってくると思うので、その辺も含めて委員の皆さん方、それ
ぞれの部会でまた議論していただくとし、部会の議論だけでなく、個別にもぜひ足
を運んでいただいて、その辺の議論をして、次の2期計画に向かっていただきたい。

=その他=

● 第3回委員会について

9月3日（月）～7日（金）の間で調整

事務局)

第3回委員会については、9月3日から7日の週の間で調整させていただきたい。事
務局のほうで各委員さんを個別に回らせていただき、しっかり聞き取りを行いながら良
い計画を作っていくたいそれについては日程調整を随時させていただきたい。

事務局)

「中心市街地の活性化に向けた取り組みを進めています」というA3判のものを作っ
ている。皆さんからご意見をいただきながら中活計画を作っていくが、より多くの方か
ら意見をいただきたいという趣旨である。基本的には今まで議論したものをベースにし
ながら、公民館などに配りながら意見をいただこうと思っている。これについてはご了
解いただきたい。

事務局)

太平線再生プロジェクトの件で委員から意見があった。これについては既に工事が始
まっており、計画どおり、全面の通行止めではないが、芝生広場を整備していこうと考
えている。活用の仕方としては、地元との協議になるが、例えば歩行者天国ができれば
あそこ一帯が使えるような形になるので、商店街と一緒に検討していきたいと考
えている。

また、1期の総括と2期の計画は同時並行でやっているが、今回いただいたご意見、
あるいはこれから皆さんのほうへ回らせていただき、1期の総括については、次回には
仕上げていきたい。

=閉会=